

資料館だより

創刊号

昭和58年8月15日

編集・発行 武蔵村山市立歴史民俗資料館

武蔵村山市中藤6343 TEL 0425(60) 6620



発刊にあたって

武蔵村山市教育委員会

教育長 尾本 皓平

館報「資料館だより」の発刊にあたり、ひとことご挨拶申しあげます。

私たちの住む武蔵村山市は、狭山丘陵を背景として、その南麓に開かれた自然豊かなうらおいのあるまちです。

その歴史のはじまりは、約1万数千年前の先土器時代に逆のぼることができます。また、市内では、縄文時代から平安時代にかけて、大集落が営まれていた吉祥山遺跡を初めとし、屋敷山遺跡や赤掘遺跡など数多くの遺跡が発見され、神社や寺院、石仏、郷土芸能などとともに貴重な文化遺産として引継がれています。

そこで、私たちは、これらの先人の優れた足跡を後世に伝え、新しい文化の創造を生み出す糧として、この文化遺産を守り続けていかなければなりません。

幸い、昭和56年11月に、市民の長い間の懸案でありました歴史民俗資料館が完成し、郷土の自然、歴史及び民俗についての資料を収集・保管するとともに、それらの貴重な資料を基に展示活動を行ない、あわせて、講座等の学習活動も実施されています。

この資料館活動の一環として、このたび、館報「資料館だより」を発行することは、市民のみなさまの文化財保護への関心と、郷土の歴史への正しい理解、情報提供の機会となることを願っております。

なお、記念すべき館報の創刊号として、斉藤慎一先生より“色々威二枚胴具足”の調査に関する貴重な玉稿を賜わり、厚く御礼申しあげ、この館報が文化財の“いしづえ”となることを期待しつつご挨拶といたします。

「色々威二枚胴具足」調査報告

日本風俗史学会会員 齋藤慎一

〔総説〕

本遺例は、当世具足の典型的な様式を備えた甲冑である。また、後世特有の過剰な装飾も附加的部分もなく、よく成立期初頭の当世具足の機能性を構造的に示している。

本来、当世具足として具備したはずの脛当・佩楯は欠失し、別体のものを附属するも、唐冠形鉢に当世鞆の兜・襟当・小鮫・篠籠手・面頬等は、当初以来一具の附属品である。

威糸は、後世の補修が加わり、紫勾威のような色どりになり、睨目も白糸に変わっていて、色々威と称すべき現状を呈するが、本来は紫系威であったと推定する。

従って、仮に「色々威」と称することにする。

猶、前立拳の部分にも後世の改修が多少加えられるが、全体として、保存良好で、当世具足の本質である機能性を、形象化した構造を伝える遺例である。

戦国時代に到って、日本甲冑史上、その活動性、機能性をもっともよく考慮して案出された当世具足も、江戸時代には太平になれ、過剰かつ無用の装飾性を加えられるものが多いが、本遺物はその弊なく、近世初頭以来の当世具足の形姿、構造を比較的良好に示すものとする。

製作は江戸時代中期以後と思われる手法を細部にみとめるが、当世具足の典型として、当初の特色を明瞭にのこす好遺例とみとめられる。

以下、各部分につき、観察の要点を指摘し報告する。

〔各部分解説〕

兜 (第1図)

鉢は唐冠形で、鉄六枚張りである。後より矧ぎはじめ前にて張り止め、表は黒漆塗。巾子の正面に七曜紋を切りすかして、息出しの穴とする。裏面は錆地のまま。

真びさしは腰巻を前方に広くのばしたいわゆる、共真びさしで、当世具足の頭形兜の手法に同じ。見上裏(真びさしの裏)は、当世具足風に朱塗りとする。

鉢正面に前立、後に後立の角本がある。前立には金銅の櫛形(釘抜き)、後立には同じく纏を付属するも後補である。

鉢高27cm。鞆は、伊予小札頭切付板物の五段下りで、日根野鞆のいわゆる、当世鞆である。本来は紫系威であったと思われるが、白糸で補修している。

吹返も当世風で、きわめて小さく、金平時絵で、三

つ団子に一引の紋をつける。

重量は2kgで、当世具足の兜としては、やや重い。鉢裏は紺の白重刺し、小縁は紺革。

緒は、三所付け、緋縮緬の丸ぐけ、後補。

この唐冠形の鉢は、戦国時代以来の意匠で、埼玉県の大川越喜多院蔵の職人図屏風の中の具足師の店頭の図にも描かれ、また青梅市の御岳神社にも同種の兜がある。

胴 (第1図)

二枚胴、前立拳三段、後立拳三段、長側五段で右引合せ、胴まわりは、長側一段目より胴尻(最下段の五段目)に向かって通減し、胸まわりは104.5cm、腰まわり95.1cmとなる。

更に肩は鉄製で幅ひろく、籠手付の縮をつける。また、胴尻は南蛮胴の影響と考えられる。すなわち、両足の運動を考慮して、左右両脇に削りこみを施してある。但し、前後の胴尻の突出部を鞋でつなぐ技法は時代の下降を思わせるものがある。

これらの諸点は、すべて当世具足の特徴を示す構造である。

立拳、長側とも鉄板物で、黒漆、菱とじ(花がらみ)に威す。揺糸及び草摺は毛引きに威す。高紐はかけ通し、これも当世具足の様式である。

覆輪は魚子地に唐草の毛彫で、きわめて精巧な製作。胸板は黒漆、外に反って鬼だまりと称される当世具足の様式をもつ。

背面には背溜があり、角がったり(待受は欠失)を付す点等も当世具足の典型である。

猶、現在は、前立拳の一の板の左右に蛇の目状の金物、二の板に采付けの環を打つも後補であり、本来は菱がらみがあったことは穴の中に残存する糸によってもあきらかである。

本来は、右の金具はなく、当世具足としては、古様を保っていたのである。

ただし、菱とじの穴に施された覆輪状の金物等、胸板より前立拳二段目までが瑠璃斎胴風に、蝶番で開閉できるようになっているのは、製作年代の下降を思わせる加飾である。

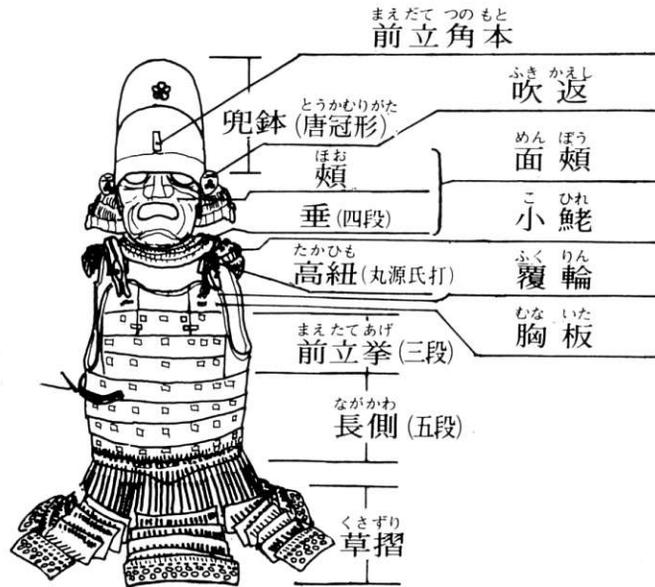
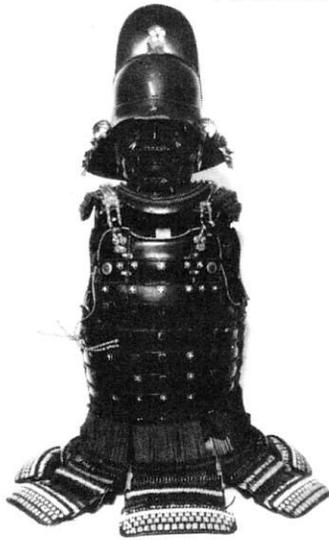
草摺七間五段。紫の勾風に白糸、薄紫の糸をまじえて威すも後補で、本来は紫系であろう。菱縫は紅糸。

小札はすべて切付小札で革製である。

猶、肩には、鉄板物切付二段の小鮫をつけ、袖はな

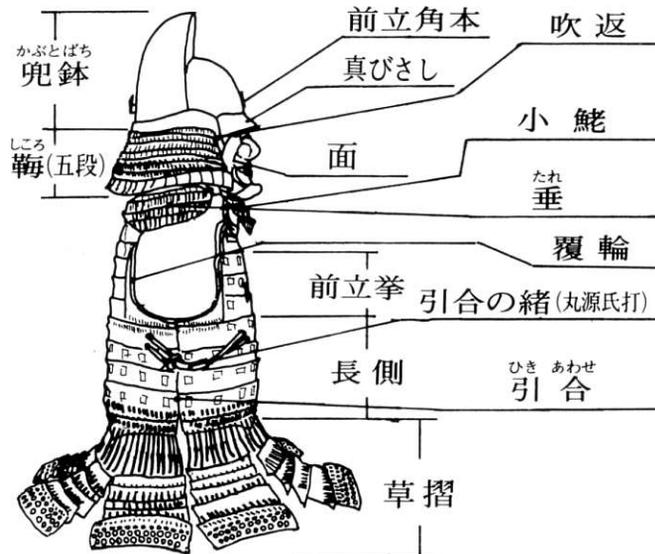
〔正面〕

胴前丈 40.4cm
草摺丈 29cm



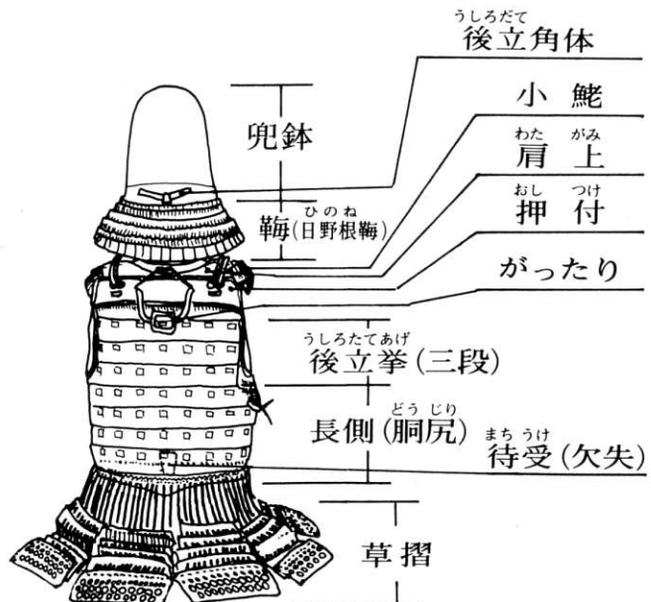
〔側面〕

胸周 104.5cm
腰周 95.1cm



〔背面〕

胴後丈 30.5cm



第1図 兜・面及び胴部

く、本来の具足の機能性を主とした造形の典型を示す。
えりあて まつこうがねぬ
襟当、亀甲金縫い込み、紫糸にてはわせ縫いに縫う。高
紐の鞋は水牛角製にて後補である。重量 6.8 kg。

籠手 (第2図)

いえじ
家地、あい染め麻。裏地茶染め木綿。いずれも後補。
こほんしのくさり
黒漆塗五本篠、鎖つなぎ。

三本篠、五本篠は、当世具足に最も多くみる様式である。

かさこはぜ
籠手の緒の笠鞋は製作優秀、金銅の魚子地唐草毛彫
で、胴の覆輪と同一手法。

本来、当世具足の鞋類は、角製が普通であり、本具足
のような例は、稀である。

つがりに角製のボタンを附す点は当世具足にふさわし
い。重量は、双方にて 1.2 kg である。

めんぼう 面頬 (第1図)

たれ
鉄製黒漆。裏朱塗。眼の下頬。垂は下げ四段で、黒漆
鉄板物。重量は、550g。面丈 13.8 cm。垂丈 8 cm。

籠手と面頬は、本来、本具足と一具をなす小具足類で
ある。

きんぱやくだんぬり
他に、金白檀塗六段の板物の当世袖 (第2図) がある
が、別体のもの。ふすべ革にて毛引きに威す。別体の
ものではあるが、当世具足の袖の一典型である。双方に
て重量 680g。

きんぱくおし
また、金箔押の板佩楯 (第2図) があるが、同じく別
体のもの。家地の弓手側に、三蓋菱、馬手側 (向かって
さきりんどう
左側) に笹竜胆の紋を、縮緬 (白) にて作り、とじつけ
る。家地は紺色の牡丹唐草の緞子。重量は 500g。

次に、七本篠の鎖つなぎの脛当 (第2図) も、別体の
もの。家地は、上記の佩楯と同じなので、一具をなすも
のであろう。篠は金箔押。重量は双方にて 350g。

〔結語〕

以上、各部分につき、観察した要点を報告した。

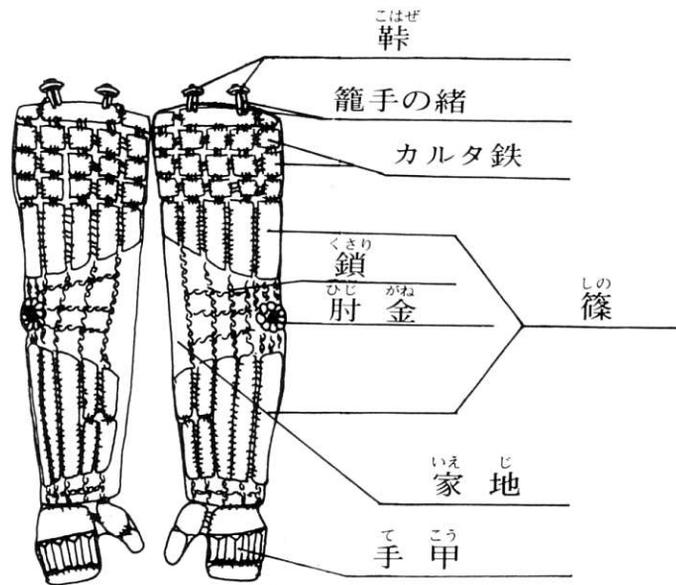
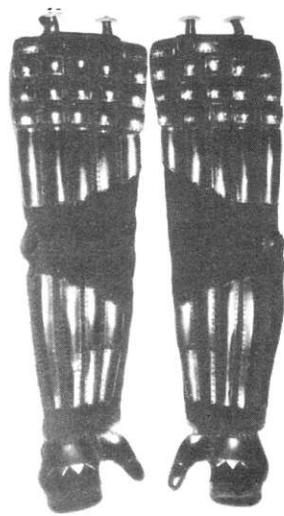
製作の年代は、細部の技法をみるときは、江戸中期を
さかのぼり得ないが、戦国時代末に完成された、当世具
足の典型を、よく示し、かつ、形姿のととのった遺例と
結論する。 (1983年3月21日調査)

本調査の対象となった具足は、昭和14年頃奥住伊
氏 (中藤3798番地) より、市立第一小学校に寄贈さ
れたもので、現在、当資料館において収蔵されている。

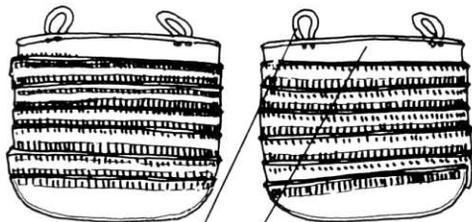
当世具足の部分名称の解説

- しころ
鞆 一兜の鉢から垂れて、頸部を守る部分。
- ま
真びさし一兜の前方、下辺の額に当たる部分。帽子のつば
に相当するが、それほどはつきでてそない。当
世具足では、多く裏を朱塗りとする。
- ふきかえし
吹返 一兜の鞆の最上段の板¹ (鉢付板) の両端あるいは
二段分くらいを、真びさしの両側で吹きそらせ
たもの。当世具足の場合、紋章などをつけるこ
とがある。
- えい
纓 一冠の部分名。冠の後部の緒が退化し、装飾化し
たもの。蟬の羽を左右にひろげた様な形になる。
- わたがみ
肩上一 一胴の背部からのびて肩にあたる部分。鉄製で内
側に革をあわせたものが、当世具足には多い。
籠手や袖を取りつけるわなが設けられている。
- たかひも
高紐 一胴の背部と前部を、肩ごしにつなぐ紐。左右二
筋で、肩の上を通り、胸板からのびた紐と、
こはぜでかけあわせて、接続する。
- むないた
胸板 一胴の前方、胸部の上端のまるみをもつ輪郭の鉄
板。高紐が左右からでる。
- たてあげ
立拳 一胴を、ぐるりとめぐる長側から立ち挙って、背
部にあたる四段分の板を後立拳、胸部にあた
る三段分を前立拳という。
- おしつけ
押付 一後立拳につづく、最上段の部分。高紐がでてい
る部分。
- ながかわ
長側 一胴を、ぐるりとめぐる五段分の板。上から一の
板、二の板と数え、最下段を笈手、胴尻と呼ぶ。
胴尻には腰をしめる繰締の緒がとりつけてある。
- るりさいどう
瑠璃齋胴 江戸初期、寛永頃の軍学者源右衛門瑠璃齋の考
案した様式という。鎧の胴の胸部を窓のように
開閉できる装置としたもの。
- ひきあわ
引合せ 一胴の長側を引きあわせる部分。右脇であわせ、
右上かさなりとする。引合せの緒で結びとめる。
- くさずり
草摺 一剣道の防具の垂れにあたる。胴の下端の胴尻か
ら、揺糸で、腰に垂れ、防禦するもの。腰の
ぐるりに、六枚及至七枚垂れ、段は五段ある。
六間五段、七間五段などと称する。
- いたもの
板物 一鎧の板は、正式には、小札 (革や鉄の縦に細長
い板) をかさねつないで一段とするが、これを、
一枚の板 (鉄・革) としたものをいう。当世具
足に多い様式である。
- きりつけ
切付 一板物の上辺に刻みを入れたりして小札の上部の
ようにみせかける意匠。
- カルタ鉄^{がね} 一方の一辺三センチから五センチ程のうすい小
鉄片。鎖でつなぎあわせ、籠手や佩楯にぬいつ
ける。
- ふくりん
覆輪 一胴板や押付の板などにつけた、金属によるほそ
いふちどり。

こて
〔籠手〕 丈63.0cm



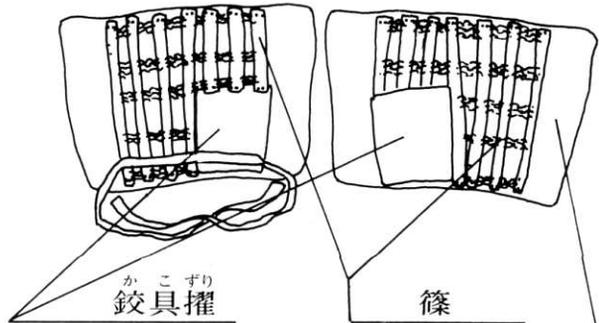
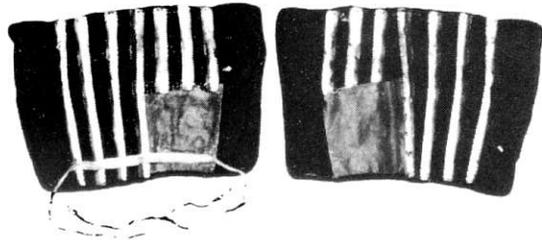
とうせいそで
〔当世袖〕 17.5×19.3cm



かむりいた
冠板

袖付の緒

すね あて
〔脛当〕 21.3×27cm

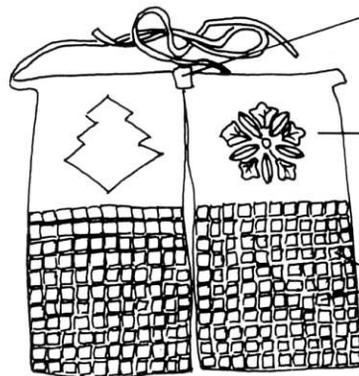
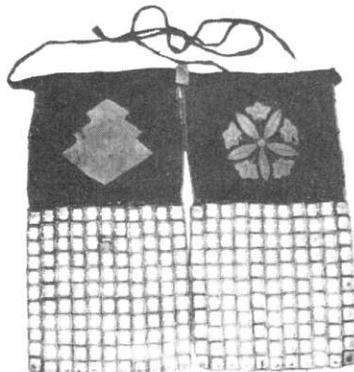


かこずり
鉸具擢

篠

家地

はい たて
〔佩楯〕 48×51cm



こさる
猿

家地

伊予札(金箔置)

第2図 籠手・当世袖・佩楯・脛当

寄贈資料（昭和56年11月3日～昭和58年3月31日）

次の方々より貴重な資料を御寄贈いただきました。
ありがとうございました。

石川伊三郎氏	三ツ木1050-5	
卓袱台（チャブダイ）	1	点
柳行李	1	点
草取器（田圃用）	1	点
斗桶	1	点
屋根刈鋏	1	点
下駄	1	点
草履	1	点
オーバー（防寒具）	1	点
甕	1	点
麦篩	1	点
薄縁（ウスベリ）	5	点
非常持出用箱	1	点
改良馬鋏	1	点
ゴムズック	1	点
付け木	1	束
粗穀焼き	1	点
書籍	5	点
山田 博氏	中藤1086	
帳場格子	1	点
種油を取る為の布（人毛）	1	点
内野栄一氏	中藤84	
釜（菊文様入り）	1	点
蠅取器	1	点
井上トシ氏	中藤6192	
柏子木	1	点
縄編機	1	点
簇織機	1	点
脱穀機	1	点
杼（ヒ）	8	点
墨壺	1	点
手斧（チョウナ）	1	点
桑切包丁	1	点
唐箕	1	点
荒井三男氏	三ツ藤1-58-10	
徴兵保険証券	1	点
内野 幸氏	中藤846	
駒下駄	1	組
内野ノブ氏	中藤439	
村山緋の経糸	1	束
波多野光根氏	中藤3708	
ナンバンギセル（植物）	1	株
奥住正治氏	中藤3919	
板碑（文安三年）	1	点

寄贈文献（昭和57年4月1日～昭和58年3月31日）

文化財の保護 第14号	(東京都教育委員会)
東京都内に現存する近代洋風建築の所在地確認調査	(東京都教育委員会)
東村山市日向北遺跡	(")
研究論集 I	(東京都埋蔵文化財センター)
多摩ニュータウン遺跡 昭和56年度(1~4分冊)	(東京都埋蔵文化財センター)
'82要覧	(東京都近代文学博物館)
年表「日本の詩歌一大正一」(")	(")
狭山丘陵における生物調査記録Part II	(東京都立武蔵村山高校生物部)
足立史談 復刻版	(足立区教育委員会)
板橋古文書調査目録53	(板橋区教育委員会)
" 54	(")
" 55	(")
上板橋宿	(")
いたばしの寺院	(")
茂呂遺跡B地点調査報告書	(")
中台馬場崎貝塚B地点予備調査報告書(")	(")
伝統技術	(大田区教育委員会)
葛飾区石仏調査報告	(葛飾区教育委員会)
葛飾区の文化財7	(")
芭蕉記念館所蔵資料目録	(江東区教育委員会)
江東区登録文化財一覧(一)・(二)	(")
品川区資料(一)	(品川区教育委員会)
品川区文化財調査報告書	(")
資料目録「絵画・書籍の部」	(渋谷区立白根郷土文化館)
豊沢貝塚報告書	(渋谷区教育委員会)
新宿区の文化財4~6	(新宿区教育委員会)
杉並の絵馬	(杉並区教育委員会)
杉並の遺跡3	(")
「松ノ木」	(")
「高井戸東(近隣第三)遺跡」	(")
墨田区文化財調査報告書III	(墨田区教育委員会)
「中神明遺跡・横穴墓群・下野毛岸横穴墓群・瀬田貝塚遺跡」	(世田谷区教育委員会)
甍った古民家第2輯	(")
世田谷の民家第1輯	(")
文化財記録映画シナリオ「野鍛冶一代」	(")
多摩川流域の文化財	(")
千代田区の文化財	(千代田区教育委員会)
豊島の墓石	(豊島区教育委員会)

練馬の民俗Ⅱ	(練馬区教育委員会)	ふるさと昔語り	(東久留米市教育委員会)
八丁堀三吉囃子	(")	多聞寺前遺跡Ⅰ	(東久留米市多聞寺前遺跡調査会)
練馬の石仏その一	(")	下里本邑遺跡発掘報告書	(東久留米市教育委員会)
" その二	(")	鹿島台遺跡	(東大和市教育委員会)
尾崎遺跡	(")	東大和のよもやまばなし	(")
白山四丁目遺跡発掘調査報告書	(文京区白山四丁目遺跡調査会)	落川遺跡調査概報(2)	(日野市落川遺跡調査会)
港区指定文化財(昭和54~56年度)	(港区教育委員会)	府中市自然調査報告書第11次調査	(府中市教育委員会)
" (昭和57年度)	(")	武蔵国分寺関連遺跡の調査Ⅱ	(")
綱差役川井家文書	(目黒区教育委員会)	武蔵国府の調査Ⅶ~Ⅺ	(")
中目黒遺跡	(")	府中市新宿菊家文書	(")
わがふるさと「秋川市郷土抄史」	(秋川市教育委員会)	婦人セミナー「私の民俗誌」三	(福生市教育委員会)
考古学からみた昭島市	(昭島市教育委員会)	郷土資料室年報Ⅱ	(")
東耕地遺跡	(")	保谷市遺跡文化財地図	(保谷市教育委員会)
稲城市の古文書	(稲城市教育委員会)	町田の石仏	(町田市立博物館)
青梅市の自然Ⅱ	(青梅市教育委員会)	武相の絵馬	(")
霞台遺跡群・大附遺跡	(青梅市郷土博物館)	小山田遺跡群	(町田市小山田遺跡調査会)
写真集「青梅」	(")	楯山神社北遺跡	(町田市教育委員会)
青梅市史料集第29号	(")	藤の台遺跡Ⅳ	(町田市藤の台遺跡調査会)
" 第30号	(")	武蔵岡遺跡 '78年度~ '80年度調査	(町田市武蔵岡遺跡調査会)
「古老の語り」続	(国立市教育委員会)	井の頭遺跡B地点発掘調査報告書	(三鷹市教育委員会)
くにたちの文化財	(")	三鷹の民俗	(")
小金井市の文化財「原始・古代の遺跡」	(小金井市教育委員会)	三鷹のお寺	(")
国分寺市の神社・寺院	(国分寺市教育委員会)	奥多摩町の文化財	(奥多摩町教育委員会)
日本住宅都市整備公団建設用地内発掘調査報告書	(小平市教育委員会)	奥多摩町誌資料集5~8	(")
鈴木遺跡一御幸第1地区一	(")	羽村町史料集第八集~第十集	(羽村町教育委員会)
立川市の年中行事	(立川市教育委員会)	日の出町の昔ばなし	(日の出町教育委員会)
諏訪神社所蔵古文書目録	(")	「多摩文庫」目録	(東京農工大学一般教養部)
「立川村十二景」その二	(")	平塚市博物館年報第5号	(平塚市博物館)
公私日記17冊	(")	所沢市史「近代史料Ⅰ」	(所沢市教育委員会)
" 18冊	(")	所沢市史研究第6号	(")
田無宿風土記(一)~(三)	(田無市文化財保護審議会)	所沢市史調査資料21	(")
「一宮遺跡」	(多摩市教育委員会)	" 別集4	(")
「和田・百草遺跡」	(")	長宮遺跡第8次の調査報告書	(上福岡市教育委員会)
調布市教育史	(調布市教育委員会)	埋蔵文化財の調査Ⅳ	(")
下布田遺跡	(")	「埼玉県入間東部の民俗一民俗社会」	(上福岡市教育委員会)
中耕地遺跡	(")	元興寺文化財研究 No.8~10	(元興寺文化財研究所)
入間町城山遺跡第9次調査概報	(")	湖底の村の記録	(奥多摩湖愛護会)
飛田給遺跡	(")	多摩川流域における初期板碑の問題	(斎藤慎一氏)
調布市のいせき	(")		
石川・天野遺跡 '79年度~ '80年度調査	(八王子市石川・天野遺跡調査会)		
弁天橋遺跡	(八王子市教育委員会)		

資料館利用概況（昭和56年11月3日～昭和58年3月31日）

年・月	個人計	市内	市外他	団体計	市内	市外	視察他	主催事業	合計	開館日数
56・11	1,055	699	356	279	187	92	14	58	1,406	22
12	630	290	340	118	16	102	40	20	808	23
57・1	951	589	362	0	0	0	12	22	985	22
2	590	332	258	339	339	0	22	46	997	22
3	1,071	638	433	469	232	237	11	36	1,587	24
4	1,312	814	498	128	23	105	0	0	1,440	24
5	1,271	714	557	401	385	16	30	0	1,702	23
6	838	496	342	199	199	0	14	70	1,121	25
7	1,045	688	357	149	23	126	0	45	1,239	20
8	1,584	923	661	100	0	100	6	0	1,690	25
9	669	321	348	84	45	39	0	40	793	23
10	1,079	669	410	360	170	190	0	42	1,481	25
11	803	423	380	354	167	187	0	23	1,180	22
12	539	325	214	47	22	25	0	0	586	22
58・1	648	416	232	193	177	16	4	10	855	22
2	782	518	264	358	358	0	0	0	1,140	22
3	1,021	631	390	955	862	93	8	19	2,003	25
計	15,888	9,486	6,402	4,533	3,205	1,328	161	431	21,013	391

日平均	40.6	24.2	16.4	11.6	8.2	3.4	0.4	1.1	53.7	—
月平均	934.6	558	376.4	266.6	188.5	78.1	9.5	25.6	1,236.1	—
比率	75.6%	—	—	21.6%	—	—	0.8%	20%	100.0%	—

昭和58年度 資料館事業（計画含）

講座・教室

- 歴史講座 6月26日 「多摩の民家とその歴史」
 11月13日 「狭山茶の起源とその歴史」
 古文書講座 11回 (5/31・6/4・6/28・7/2・7/26・8/9・
 8/23・9/6・9/20・10/4・10/18)
 子供自然教室 6回 (8/4～8/6, 8/9～8/11)
 縄文土器づくり教室 3回 (10/1・10/2・10/28)

展示活動

- 常設展「武蔵村山、その自然・歴史・民俗」 年間
 作品展「狭山丘陵の草花」 8/2～8/26
 “ 「子供達のつくった縄文土器」 9/1～9/11
 写真展「写真でみる武蔵村山の今昔」 10/6～10/26

文化財映画観賞会

- 1/31 「東京の古建築」 「武蔵野の民家」
 8/28 「多摩川～その歴史と風土～、～多摩川絵図～」

- 10/31 「高尾の自然を訪ねて」「武蔵野の秋をたずねて」
 11/2 「日本の祭」「くらやみ祭を前にして」
 11/2 「青梅街道をたずねて」「街道に残る文化財」
 11/28 「村山大島紬」「黄八丈」

資料館からのお願い

資料館では、武蔵村山市の歴史を伝えるような写真を集収しております。

この写真を後世に伝える貴重な資料とし、目録を作成したいと考えております。

また、広く市民に公開するため、市報・社会教育だより等に掲載するとともに、写真展なども企画しております。ご協力をお願いします。

▷連絡先 歴史民俗資料館 ☎(60)6620